



Subaru

男声合唱団

ニュース741

'20. 9. 1

昴第20回総会開催「コロナ禍を体験して 新たな合唱団「昴」を模索しよう！」

8月30日

- 男声合唱団「昴」第20回総会が、「コロナ禍を体験して、新たな合唱団「昴」を模索しよう！」のテーマのもと、8月30日（日）9：30～12：00に、大阪市立青少年センター・新大阪ココプラザ 505号室にて開催されました。（今年の総会は、コロナ禍のもとでの開催となり、在籍者 41名・出席者 26名。欠席者5名および休団者（10名中6名）からは事前にメールや電話等での連絡で団長に権限を委任され、総会は成立しました。）



議長に吉岡 敬氏を、書記に吉川勝彦氏を選出し、団員全員に事前に配布された「男声合唱団昴 第20回総会議案書」に基づき総会議案の審議が進められました。

○冒頭、千秋昌弘団長より、総会開会にあたり、「戦後75年、昴創立20年、パンデミックの中での昴の存在意義を考えよう」と開会の挨拶がありました。

「今、昴は厳しい時期にある。でも歌い続けよう！コロナへの細心の注意を払い、森林破壊、地球温暖化、野生動物の生活縮小などを壊さず、何億年も前から共生してきたウイルスとのバランスを壊さず、歌い続ける道を、共に築こう。20年以上歌い続けている昴の灯を消すことなく、力を合わせよう 昴！」と

○まず、立川事務局長より、「この1年を振り返って」のテーマで、昨年総会后(2019年9月)から現在までの昴の活動報告がありました。

1. コロナウイルス感染拡大までの、この1年の前半の昴と大阪のうたごえの諸活動、

特に「うたごえ祭典京都」での昴の活動、2月の「大阪のうたごえ祭典」の大成功と大阪のうたごえの持つ力量の大きさと昴の果たした大きな役割等について、逐次報告がありました。

2. コロナウイルス感染拡大後の諸活動の一時停滞、「13回コンサート」の延期、定期レッスンの3か月の中止と、コロナウイルスへの「万全の対策」をたてたうえでの、7月からの2班に分かれてのレッスン再開、パートレッスン、声楽レッスンの再開の模索等・・・

3. うたごえ新聞拡大の1年間の拡大状況と昴の拡大活動について報告がありました。

4. 「組織部」で、「組織建設推進委員会」が立ち上がり、「団員拡大」の具体的な諸方策の実現に向け動き出していること。コロナで一時中断した活動が現在再開される状況にあるとの報告がありました。



○伊藤副指揮者より、「2020 年 定期総会後の活動へ向けて」のテーマで、議案書で提示した内容については、読み上げは割愛し、書いていない点の補足と議案書作成後の進展についての具体的な内容について、新たに配布された 6 頁の資料（※ 1）を示して、今後の活動をいかに進めて行くか？ 具体的な問題提起が行われました。

（※ 1） 6 頁の資料は以下の 4 つの文書

- ・「コロナ禍が続く中、『昴』の今後の活動継続に対する考え方、選択肢など」
- ・「第 13 回コンサート検討予算（豊中市立文化芸術ホール）」
- ・「8/18 にクレオ大阪中央のホール担当職員から電話で聴取した利用条件」
- ・「豊中市立文化芸術センター大ホールでの利用条件」

1. まず、「コロナウイルスの感染から全団員のいのちと健康を守り切ることを第 1 の課題に考えること」

全てのレッスン時にあらゆる感染防止策を講じながらの活動となる事。

「感染疑者対応」：発熱・体調不良者の自主的欠席・来室時の体温測定の実施。

「接触感染予防」：手指消毒・使用物品消毒。楽譜等共有使用の禁止、互いに触れ合わない。

「飛沫感染予防」：マスクなどでの口周りを覆う、1.5m 以上の距離確保。室内換気を頻繁に実施・風通しの確保。

当面ねむかホールでの定例レッスンは、8 月同様、「三密」を避けるため、2 班 15 名以内で継続する。また声楽教室・パートレッスン・演奏会等は安全に実施可能な条件下で開催することに最大限努力する。

2. コロナウイルス感染が続く中、延期となった 13 回コンサートをどうするか？ 昴の活動を支える財政問題をどう乗り切るか？

①13 回コンサートの実施の可能性を追及する。

○まず、次のコンサートの出演者数はどの程度となるか？

コロナ禍の中、7・8 月の定例レッスン参加者は 25 名、様々な事情で参加されていないメンバーは休団者を除き 11 名。8 月末退団者が一人あり、新型コロナウイルスの終息は今からまだ 2 年先になるという見方もあるので、9 月以後レッスン参加者が増えても、次のコンサートは、24～28 名程度の合唱演奏になる可能性が高い。

○利用可能な諸施設のなかで、2 つのセンター大ホールを詳細に調査した。

利用できる諸施設のコロナ対策予防実施に伴い、利用上のさまざまな制約がある中で、実施の可能性のある 2 つのセンター、「クレオ大阪中央大ホール」「豊中市立文化芸術センター大ホール」に対する聞き取り・問い合わせを十分行ない、財政部長の会計収支試算等も検討の上で、「豊中市立文化芸術センター大ホール」の実現可能性が大きいのではないかと判断した。

13 回コン開催予定のクレオ大阪中央のホールはホール側が要求している合唱公演条件(同時に 12~13 人しか一緒に演奏できない=詳細は別紙参照)があまりにも厳しく、開催不可と判断せざるを得なくなった。

代わる会場として「11 回コンサート」で使用した豊中市立文化芸術センター大ホールを検討中(同ホールの開催条件も別紙参照)で、このホールは昂メンバー全員での演奏が可能。

来年 8 月迄にまだ空いている日程は 5・6 月に 3 回しかない。9 月以後は毎月 1 日の抽選申し込みで決まる。

②昂の活動を支える収入は、団費以外に別途毎年 50 万円程度が必要。コンサート開催での収入が第 1。団員によるカンパ収入の方法が過去 1 度経験有り。

昂の活動を支える財政を維持していく上で、コンサート開催により資金を得るか団員の募金で賄うかの判断が求められる。次の年度にコンサート開催による収入がなければ、その次の年度への繰越金不足となる状況にあることも踏まえ、13 回コン開催をどうするか。考えたい。

3. 「団内コンサート」の開催について

団内コンサートは、東成区民センター小ホールにて、来年 2 月に実施できる見通しがある。実施する方向が決まれば、直ぐに会場利用を申し込みたい。

コロナ禍で合唱発表の場を失っている団員にとって、発表の場を持つことは、合唱活動の大きな励みにもなる。また、2グループに分かれての昂レッスンの 15 人規模での練習曲の発表も可能である。コロナ対策を十分講じたいので、開催の方向で、担当委員に協力のもと、開催の方向で考えたい。

4. 団員増をめざそう！

団長・組織部長を中心に、「組織建設推進委員会」が立ち上がり、月 1 回の会議で検討を重ね、「昂友の会」の結成と「日曜団員募集」に向けての詳細な計画が立てられた。コロナ禍での中断を経て、8 月から「組織建設推進委員会」が再開され、「団員増」につながる諸活動が期待される。

5. パートレッスンの充実とレッスンの工夫を！

パートレッスンに関して、参加者は各自がどの曲のどこを練習したいかを自己申告してください。

6. 各人が自己の「健康管理」に努めましょう！

コロナ禍をのりきるためにも、免疫力を衰えさせないよう、「身体づくり」に努力しよう！

3密を避ける努力、ウォーキングや適度な運動、食事管理、睡眠、ストレスのできる限りの回避等コロナウイルスにかからない健康管理に努めましょう！

7. 「うたごえ新聞」と「季刊 うたごえ」の「定期購読者」を増やそう！

「団員の拡大」や「昂コンサートの開催」等の中で、「うたごえ新聞」拡大は可能となる。また「季刊 うたごえ」のうたごえの理論・歴史を学び、作曲家・評論家・うたごえ運動指導者等の見解を知ることによって、うたごえの世界が広がる「季刊 うたごえ」を購読しよう！

○各部長から、この1年間の各部の活動報告が行われました。

○伊藤技術部長から、

1. 「日うた合唱発表会」での「日日草」「朝露」での銅賞受賞、「京都うたごえ祭典」での「音楽会Ⅲ」での合同合唱「労働者の合唱」出演等、今回も昂の対外的な合唱活動での努力・健闘についての報告がありました。
2. 13 回コンサートの実施寸前までの準備と延期後の技術部を中心にした検討・対応について、会議と調査を重ね、今に至っていること、また今後の計画について報告がありました。(「2020 年活動計画」と関連して)
3. 声楽教室(嶋本教室・恵谷教室)の開催・パートレッスンの開催状況についての報告がありました。
4. 13 回コンサート曲の「音源」の活用について、聴ける手だて(デバイスの購入)と聴く努力を！



○岡邑組織部長から

1. 団員増を目指し、「組織建設推進委員会」を開催し、諸計画の具体化を検討してきましたが、コロナ禍で活動の中断を余儀なくされている。

2月11日段階の決定事項として

- ・「友の会」規約の作成。
- ・「うたう会」を「友の会」の活動の一環とする。
- ・「友の会」結成総会の開催「日曜団員」の募集「女声会員の練習」を今後行う。

2. 今後の方向について、

- ・具体的に、「友の会」の立ち上げ、「日曜団員」「友の会」の募集の具体化を図る。

・「友の会」のマスクを作成し、マスクをつけての「友の会」のレッスン実施。

・「友 X」の立ち上げの検討

○吉川広報部長から

1. この1年間の「友の会」広報部としての「友の会ニュース」と「レッスン他行事予定表」の発行状況、「友の会ニュース」の発行の意義とその必要性、今後も続けて行くこと(継続性)、また「友の会HP」の協力があつての「友の会広報」であること等の説明があつた。

2. この1年間の特筆記事としては、うたごえ合唱発表会の「京都祭典」銅賞受賞・「京都祭典」の合同合唱の練習段階からの記事、「大阪のうたごえ祭典」の「友の会」合同合唱でのレッスンから発表までの活躍記事等・・・「大阪のうたごえに友あり！」

3. 今後の課題として、

- ①広報部員の募集
- ②スマホ・インターネット時代での「友の会」広報についての検討(未定)
- ③記事の「投稿」の要請・・・

○吉田財政部長より

1. 2019年度の決算報告と会計監査報告がありました。

(この1年間の「第19回総会以降の財政収支報告」(別紙)の説明による。)

・鈴木淳一監査より、帳簿・通帳等正しく記載され、1年間の収支が正しいことの監査報告がありました。

2. コロナウイルス感染に伴う「友の会」活動休止期間のいわゆる「コロナ団費」の納入、ピアニスト・指揮者・会場賃借料等の補償への団員の協力に対して、報告とともに謝意が述べられた。

○それぞれの「報告」に基づき、「討議」が行われました。

1、「コンサート実施時期を何時にするか? どう考えてレッスンに取り組むか?」の悩ましくも重要な意見交換が行われた。



○(慎重な意見として)

○コロナウイルス感染拡大は、9月末にいったん治まるか? 12月頃に大きな波(第2・3波)が予想される。2021年6月の開催を立てるのは危険?もう少し慎重に考え、来年初以降に実施した方がより安全なのでは?

○チケット販売の対象者は高齢者が多い。外出自粛・コロナ終息を待っているがまだ先。チケット販売の見通しが立たない。6月実施はまだ早い。もっと先にできないか?

○(コンサート開催日を設定してレッスンに取り組もう！の意見として)

○「豊中市立文化芸術センター大ホール」に対する聞き取り・問い合わせを十分行ない、財政部長の会計収支試算等も検討の上で、「豊中市立文化芸術センター大ホール」が実現可能性が大きいのではないか(資料「コロナ禍が続く中、「昂」の今後の活動継続に対する考え方、選択肢など」2020・8・28 6頁建て参照)」現時点での2021年6月20日の予約が可能か問い合わせることを行いたい。(伊藤副指揮者)

○コロナ感染終息まで、まだ2・3年かかるのでは。来年秋以降ということにして、コンサート計画・日程も立てずに、「ズルズル」と、レッスンばかりでは、レッスンに力が入らない。「目標設定してレッスンする」ことをしてほしい。

○「目標を設定する」ことによって、歌う曲にも元気が出てくる、その力が欲しい。来年6月も9月もソーシャルディスタンスは変わらないのでは。6月20日に第1候補会場を予約して、レッスンに取り組んでほしい。というのが私(本並指揮者)の要望。

○来客者の集客力の問題は、会場を収容許可能能力いっぱい(定員の1/2)集める努力をするとともに、主催者が会場設営・運営に「安全100%」努力していることを宣伝する。(チランや案内状に)

○10月になっても、年末になっても、状況は大きくは変わらないのでは？目標がない状態で、レッスンをしたくない。コンサート日時を決めて、赤字覚悟でもやろうという方が、「やる気」が出るので、「6月」コンサートに決めてほしい。

以上のように「演奏会をどうするか」について、「早急に開催場所の押さえ(予約)」が必要であるが、この場ですぐの採決はできない。総会後に「臨時運営委員会」を開催し、協議して決定したいので了解して欲しい。」との立川事務局長より提案があり、団長・副団長・事務局長・各部長の総意としての提案であるということで、反対意見無く、総会として了承しました。

2.「団員増」の問題で、「組織建設推進委員会」での熱心な検討が、この1年間おこなわれ、「友の会」「月1回レッスン」「日曜レッスン」の募集等具体化に向けて実現できれば画期的なことだ。今後の報告に期待すると、建設委員の一人から発言がありました。

3. 新入団員として、春木谷さんと光本さんの紹介がありました。入団の感想と昂の印象、コロナ禍でも歌い続けたいとの発言がありました。

4. 昂演奏を「無観客コンサート」で行い、DVDで販売して欲しい。ライブ配信・CD配信も検討に入れてほしいとの発言がありました。

○最後に、まとめの報告を立川事務局長が行った後、「これまでの「活動報告」「これからの1年間の活動方針」「各部からの報告」「財政収支報告・会計監査報告」のそれぞれを承認するために(2/3賛成必要)、反対・保留の場合は挙手を求め、各項目それぞれ「反対・保留の挙手」は無く、「異議なしの拍手」で承認しました。

また、立川事務局長から、「2020年度役員体制(案)」の提案があり、「運営委員会の構成委員」を承認し、以下各部部員のメンバーは異動がある事を含めて、承認されました。

○議長を解任し、本日の総会を終了しました。11・40終了。

(※総会後、「演奏会をどうするか」について、臨時運営委員会を「新運営委員」(出席15名欠席1名)で開催しました。検討の結果、6月20日豊中市立文化芸術センターでの13回コンサート開催が望ましいことを運営委員会で確認し、早速予約をしました。)

(参考) 英断!! 「演奏会を決断して得たこと」 西岡茂樹先生の投稿記事より(2020.9.7 うたごえ新聞)

8月6日 豊中市立文化芸術センター大ホールにて、「豊中少年少女合唱団」が50人の団員で、定員1344席の1/6 250名のお客さんの前で、合唱コンサートを成功させました!

え 新 聞

(1959年1月31日)
第三種郵便物認可

第2664号

(4)

コロナ禍を超えて

3月末に演奏会の延期を決めました。幸い、新型コロナウイルスが原因の延期ということで、ホールのキャンセル料はか

ビデオレクチャの
数カ月を経て
結局、3月から5月の3

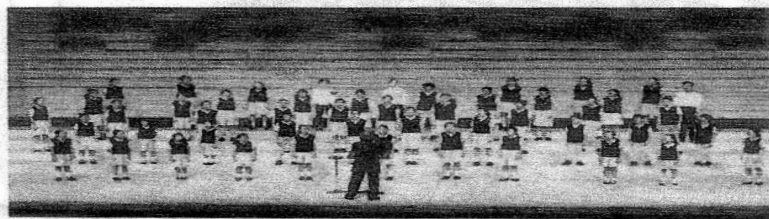
合唱の未来を信じてくれた

方月間、合唱団は完全に休止、その間、時折、YouTubeを使って私からビデオメッセージを流し、これを見ながら一緒に歌おうと呼びかけました。ちょうど練習していた曲の一つが新美徳英先生の「あいたくて、また あいたくて」という曲集だったので、なんとなく切ない思いでした。6月から公民館が使えるようになり、それがまた「歌ってはいけない」ということでした。それでも3カ月間、家で孤立していた子ども達の心の状態が心配だったので、とにかく顔だし、手指の消毒と検温をし、歌わないで、心体を

豊中少年少女合唱団は、去る8月8日第18回定期演奏会を開催しました。本来、この演奏会は4月25日に開催予定でしたが、3月



からず助かりましたが、3万枚印刷していたチラシは配布前にすべてゴミとなりました。その時点で同じホールの年内で空いている土日が一日だけあり、それがこの日でした。いくらなんでも8月までには事態は沈静化するだろうと、すぐに押さえたが、その予想は見事に裏切られました。



▲豊中少年少女合唱団第18回定期演奏会

8月8日 豊中市立文化芸術センター大ホール

事として、曲の背景の勉強、ハンドサイン、小さな声で詩の朗読などをやりました。その時点ですでに、一人一人が共に集い、歌う」ということに対して恐怖感を持っている人も多く、また、これから合唱の行く末に希望が持てず、絶望している予すらいのです。その様子を丁寧に観察しながら、集いを重ね、7月からはマスク

響せて歌い合っことができた日があるから、諦めることなく、その日が来るまで我慢しながら頑張ろう」と声をかけ続けました。

演奏会は子ども応援者の喜び

そして演奏会という場は、子ども達にとって最も合唱の喜びを感じ、信じられる場であり、また応援している大人にとっても、新型コロナウイルスで疲弊している心に束の間の安らぎ、喜びが感じられる場であると思い、収束とはほど遠い現状ではありましたが、8月8日の決行を決心しました。

子どもたち

60人を50人に

これはなかなか覚悟がいる厳しい決断でしたが、今、演奏会をやる意義を子ども達や保護者に説明し、幸いにして理解を得ることができました。

もちろん演奏会がクラスターになっては元も子もありませんので、できる限りの感染防止策を講じました。その最大のポイントは、演奏会を関係者限りの会としたことです。つまり演奏会は外部には一切広報せず、団員の家族や親戚、親

ホール側も地元の私たちの活動を応援したい、どの思いがあり、様々な面で協力してくださいまし

た。これには地域コミュニティ活動ならではの有り難い一面を見た思いでした。

舞台上の並びについてもホール側と協議し、これまでの演奏会は約60名のメンバーが3列に並んでいましたが、今回は約50名のメンバーで5列とし、人と人の距離をとれるようにしていただきました。楽屋から舞台袖までは全員がマスクをし、舞台に出る直前にマスクを外してそれを係の保護者が受け取る、そして舞台

生の歌声は渴望されていた

しい友人など、感染対策をきちっとやって下さる信頼できる方に聴きにきていただくことにしました。これは全く本意ではなく、本当は誰でも気軽にフラッと立ち寄って「へえー、合唱っていいなあ」と感じていただけるようにしたいのですが、今回は背に腹はかえられません。

もちろん出演者にも平素から感染対策に十分配慮するよう口酸っぱく話し、演奏会の二週間前からは自宅

袖に戻ってきた時は、新しいマスクを手渡すというような対応もしました。

残念ながら、舞台上で密になったり、客席に降りてお客様と接近する演出は不可との要請がホール側からあり、予定していた柴田南雄先生のシアターピース「北越戦艦」の上演は見合わせざるを得ませんでした。これも背に腹はかえれないと諦めました。結果論ですが、演奏会を契機とした感染者は出ておらず、この情勢下、大きなストレ

た。まだまだ先は不透明ですが、諦めず、粘り強く、子ども達や応援してくださる方々と共に、これか

は、皆、歌えて良かった

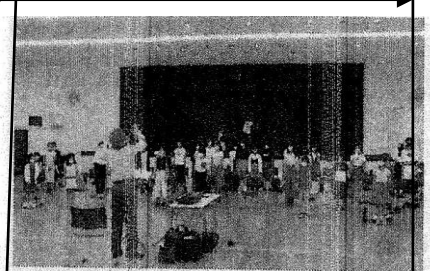
で毎日検温をして報告してもらいました。幸いにして、ホールは2016年にオープンした新しい建物であり、換気能力は非常に高いとのことでした。定員は1344席、当日は約1/6の250名くらいのお客様でした。前4列をつぶしましたが、それでも広々と座っていたかったです。もちろんお客様にもマスク着用、入り口での検温にご協力いただきました。

合唱に絶望して退団した子、家族に病気のお年寄りがいる子、学校で感染者が出て、その濃厚接触者ではなかったけれど、皆の安全のため当日に出演を辞退した子ども、本来は60名で歌えるはずだったのが50名のオンラインになったのは残念でした。

合唱に絶望して退団した子、家族に病気のお年寄りがいる子、学校で感染者が出て、その濃厚接触者ではなかったけれど、皆の安全のため当日に出演を辞退した子ども、本来は60名で歌えるはずだったのが50名のオンラインになったのは残念でした。

た。まだまだ先は不透明ですが、諦めず、粘り強く、子ども達や応援してくださる方々と共に、これか

は、皆、歌えて良かった



▲豊中青少年少女合唱団、練習風景

高揚した面持ちで語ってくれました。合唱の未来を信じてくれたと思います。また、例年よりはかなり少ないお客様でしたが、暖かい拍手をいただき、久しぶりにホールで生の歌声を聴いて涙したとの声も数多く聞かれました。お客様もほんとうに渴望されていたのだと、あらためて思います。

ちも歩みつづけたと思っています。指揮のことより、そっちに費やすエネルギーの方がハンパじゃないですが。

最終ステージの「信長貴富作品」をYouTubeで公開しています。よろしければご覧下さい。https://youtu.be/DgeJlC2z4mM